

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	姫路市総合計画策定審議会 第2分科会 第2回会議
2 開催日時	令和元年10月15日(火曜日) 14時00分～16時10分
3 開催場所	姫路市総合福祉会館5階 第2会議室
4 出席者又は欠席者名	姫路市総合計画策定審議会委員 第2分科会 委員 13人中 12人(1人欠席) 姫路市総合計画策定審議会参与 5人中 1人
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可(5人) 傍聴人(0人)
6 議題又は案件及び結論等	1. 開会 2. 事務局説明 3. 審議 4. その他 5. 閉会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

事務局	1 開会 (14:00)
分科会会長	2 事務局説明 ・「資料1 新総合計画の構成」について事務局から説明をお願いします。
事務局	[説明資料] 資料1 新総合計画の構成 ・政策は現在のところ25設定しているが、多くても30までにしたい。 ・資料1の説明は以上である。
分科会会長	・新総合計画の構成についてご意見ご質問等があれば伺う。
委員	・「観光・スポーツ」のところ「2 スポーツを通じた活気あふれる地域社会の実現」で、「地域」という言葉がいくつか出てきているが、これは姫路市と考えたら良いか、それとも飾磨地区とかいくつか分類するのか。
事務局	・スポーツ分野は、校区単位で「スポーツ21」などの組織が作られているんな活動がされているので、ここでは小学校区を単位とした市内全体という意味合いで捉えていただければよい。
委員	・流れの中で校区と捉えるか、市全体と捉えるか、ということによいか。
事務局	・校区単位でのスポーツ活動を通じて、市全体で活気を生み出していくという取組をしていく。
委員	・では、「地域スポーツ」という言葉であれば、姫路市ではなく、もう少し小さな単位と考えればよいということか。
分科会会長	・他にご質問、ご意見等はないか。 ・他にも「地域」という言葉が色んな政策で出てくるが、それはそれぞれの分野でそういうものだという考え方で進めていけばよいか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに色々な分野で出てくるが、政策の中で地域を示す範囲はいろいろある。今のように小学校区を指すこともあれば、市内を13に分けた地域ブロックを指す場合もある。地域という言葉を使った時は、その都度範囲は異なると考えていただければよい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にご質問、ご意見はないか。また、議論を進めていく中で気づいたことがあれば質問していただきたい。 ・それでは次第3、審議に移る。
分科会会長	<p>3 審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2、資料3の「分野目標（案）」「政策（案）」について事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>[説明資料] 補足説明資料、資料2 環境分野</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・分野目標と説明に関してご意見があれば述べていただきたい。ここを直した方が良いとか、内容的に不足している点などがあればお伺いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今何をやらなければならないかは、みな同じ考えだと思う。東日本では大きな水害があった。特に姫路では大電力を消費する産業が多いのは確かです、その中でいかにバランスを取りながらというのが一番大きい。書かれているように、市民と事業者、まちがいなく大きな会社でどのように進めていくか、というのが一つの大きな課題だと思う。 ・その中でいろいろな施策が市から打ち出されると思うが、ここの分野目標に関しては当たり前のことが書かれているので、もっと「何パーセント削減していきます」くらい思い切ったことを書いてもよいのではないかと。市としてどのくらいのことをやろうとしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭に現総合計画の評価の話をさせていただいた。新総合計画でも同様にそれぞれの分野で目標を掲げて、その進捗度、達成度を検証していく。

委員	<p>さらに事業、施策の改善につなげていくことを進めていく。この基本構想の中ではそういった目標までは掲げない。実施計画の中で目標は掲げていくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（分野目標の文中）低炭素化対策というのは具体的にはどういうことか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単に言えばCO2（二酸化炭素）の排出抑制ということになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・低炭素というのは炭素全体を減らすということか。
事務局（環境政策室長）	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスについては、国際的に今の地球温暖化の原因は、温室効果ガス（CO2）の増加が原因でほぼ間違いないと言われているところであり、パリ協定では産業革命以前と比較して+1.5℃までに抑えなければいけないと言われている。その中で姫路市としてどのようなことができるのかということで、総合計画の基本構想の中で定め、環境部局としてもその総合計画を上位計画として、環境基本計画の中でも温暖化対策に対しての取組や施策を示していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・炭素というとカーボン全体を指すが、CO2だけなのか。
事務局（環境政策室長）	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスは大半が二酸化炭素である。一般的に低炭素イコール低二酸化炭素という意味で使われている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市には火力発電所が2機ある。燃料はLNGで石炭ではないからまだよいのかもしれないが、そのような大きな問題から考えるのか。低炭素化しようと思うと、先日の国連気候行動サミットでグreta・トゥーンベリさんが各国の首脳らに温暖化対策の行動に出るように訴えかけたような大きなレベルの話になる。そのようなものを書き込んでいってよいのか。 ・言葉として「低炭素化対策」と出ているが、本質的なところはそこにあるので、姫路市として何をイメージして低炭素化を実現しようとしている

委員	<p>かを、具体的に示してもらわないとこの文脈では理解できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各企業もこれまでに燃料を重油からLNGに切り替えるなど努力をしている。その中でさらにやるとすると、企業にも大きく負担がかかり、産業自体が成り立たなくなる可能性もでてくる。その中でどこまでするか、というのは難しい部分があると思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃるとおり企業の経済活動と環境問題は両極にある問題であり、行政の方で一方的に規制するというのではなく、市民、事業者、行政でそれぞれができることをやっていくことで、地球温暖化をできるだけ防ぐようにしていこうということ。 ・規制する事ばかりではなく、再生可能エネルギーへの転換ということもあるし、企業で効率の良い発電施設の開発をするなど、それぞれでできることをやっていこうというような計画にしていこうと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー源として、炭素を排出するようなものをできるだけ避ける方向で、再生可能エネルギーなどをどんどん増やしていく。そういう支援を姫路市としてはしていこうということか。 ・直接的に海岸にたくさんある産業活動を一方的に規制するのではなく、それに代わるものをつくっていこうということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路はものづくりの強いまちであるというのはご存じのとおりであるが、その経済活動を抑えてしまうということはやってはいけないと思うので、経済活動も継続しつつ、環境の方ではできる限り他のエネルギーに転換できるものはそういった方向へすすめていこうと考えている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の問題として、エネルギーや低炭素化の「対策」という言葉を入れてしまってよいのかという話である。色んな意見が出ているので、修正するのであればそれを取り込んだ形で考えていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの排出量の推移について、微減している感じはするが、人口も少し

事務局	<p>ずつ減っている。それと同じくらいで減っているのか、住民の意識が高まってきて減っているのか、市ではどのように捉えているのか。</p> <p>・ごみの排出量が減っているのは、人口が減っていることとは直接的にはあまり関係ないと考えている。そこまで人口は減っていない。資源化率が少し下がってきているが、ここに書かれているのは行政が行う資源化であり、街なかのごみステーションなど色々な形で民間による資源化が増えてきており、その関係で行政による資源化率下がってきている。全体では行政と民間の両方で再資源化は進んでいて、ごみの排出量が減ってきていると考えている。</p>
委員	<p>・良い方向に進んでいるということか。</p>
事務局	<p>・良い方向だと思っている。</p>
委員	<p>・姫路市は、資源化ごみは日を決めて集めているのか。</p>
事務局	<p>・はい。</p>
委員	<p>・最近、多くの都市でそれを集めずに、個人で持って行って捨てる場所だけを用意するようなどころが増えてきているようだが、集めることは良い事だと思う。</p>
委員	<p>・地域とのつながりからすれば、「廃品回収の日」というのをするのも大切だと思う。</p>
事務局	<p>・月に2回粗大ごみの日があって、それが一つのコミュニケーションになっていると思う。いつでも捨てられるごみステーションは便利ではあるけれども、地域コミュニティの衰退の原因かもしれない。</p>
委員	<p>・昔は子ども会で空き缶を集めて、その予算で何かをしたりしていたが、</p>

委員	<p>今はそういうお金よりも面倒くさいという気持ちが勝ってしまっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は学校で、そういったことをリサイクルの教育の一環としていた。環境は幼少期からの教育が重要ではないか。そういった意識を持った市民が増えるといろいろなことに気を付けるようになるのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境は、啓発活動も大事な要素であり、それを小さな子どもから始めていくというのは大切である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルはリサイクル率が相当悪くなっているのではないか。東南アジアに持って行っていたものが、この頃持って行けなくなって捨てるどころに困っているという話になってきている。ちゃんとできるのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックごみはしっかりと再資源化されているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・溶かして作り直す、というリサイクルに回っている。ペットボトルも同様である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・表現について、全体に関わることだが、分野目標の冒頭に「市民、事業者、行政など」とあるが「など」をつけるのは良くないと思う。「すべての主体が」だけでよいのではないか。必要なのであれば別のところで説明を入れればよい。「など」がここに入っているのが気になった。 ・「環境の大切さを認識し」の、「認識し」という言葉は、よく使うし便利だが表面的で他人事の印象を与える気がする。この目標は市民一人ひとりの心に沁み込むようなものにしないといけないので「理解する」といった言葉の方が適切なのではないかという印象がある。 ・おそらく他の分野目標についても言えると思うが、もう少し皆さんに浸透しやすいものにし、わかりやすい言葉、短い文にしていただければと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の言葉の選択には苦労している。環境分野では自然環境、生活環

	<p>境、ごみ処理、資源の循環という幅広い要素をこの3行に全て入れないといけない。委員のご指摘もよく分かるので、なるべく市民を含め皆様に訴えるような、わかりやすい表現にしていきたい。「すべての主体」のところは、例示的にこういったものを書かないと、逆に「すべてって誰？何？」となってしまう方もあるのではないかと考えたこと、総合計画が市民と地域、企業、団体全ての取組としてつくりあげていくことを表すという2つの点から「市民、事業者、行政など」と例示的に書いているが、ない方が良いか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「など」とつけると雑多になるのでつけない方が良い。「など」を付けるのであれば、それは何かまで例示をしなければいけない。例示は細かいサブのところを書けばよい。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画は「まちづくりと自治の条例」に基づくものであり、全てが市民、地域、企業を含めての話である。現計画でも同じように書かれているのでそのまま引っ張ってきたのだなと捉えてしまうが、今回はそういった条例に基づいての総合計画であるので、その辺りの書き方は全てが市民、地域、企業、団体の事であると思うので書き方は考えた方が良いでしょう。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回の会議でお示した行動指針があり、そこにも同じように地域や人などが総合計画の取組をすすめていくということがまとめられているので、わざわざ書かなくても良いかもしれない。 ・施策や事業のところでは具体的な例示を加えるのであれば加える、ということで分野目標についてはシンプルにするように、次回に向けて修正案を検討したい。全体を通して「など」の表現については精査させていただきたい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この後、政策案についても議論をしないといけない。分野目標についてはこの後の細かい話を踏まえてもう一度修正が必要になり、今の皆様のご意見にも、シンプルに分りやすくというのがあったので、完成版はこ

委員	<p>れから練らなければならないと思う。次回以降、修正案をだしていただいてそちらで審議するというので、次回以降に審議をするということでご理解いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次に3ページの環境分野の政策1「自然とひとが調和した快適な空間の保全と創出」に移りたい。 ・まず、政策案、目指す姿に関してのご意見をうかがいたい。おそらく、その話の流れの中で、その後の「目指す姿を実現するための方向性」についての主な検討課題のところも関わってくると思うので、3ページについてご意見、ご質問あれば合わせてお聞かせいただければと思う。 ・この中で里山や水系のことが書かれているが、農振地域においては、大規模化、高齢化が課題である。 ・大規模化が進むと農家の数は減る。そういった中で溝掘りにも苦労している。草刈りも広範囲で、中山間地は斜面も多く作業もしにくい。シルバー人材センターに頼んでもコストがかかるため採算が合わなくなるといったこともある。環境分野、農業分野両方絡むが、姫路市はそういったことはどの範囲で考えようとしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらも大切な問題であり、土地利用をどちらに進めるのか、自然を保全するのか、それとも農業も含めて、開発とまでは行かないがある意味開発を進めるかについては、その地域の土地利用をどうするかを考え、地域特性に合わせた事業を進める考え方で、どちらかに一方だけ力を入れるということとはできない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手のところはかなり深刻。集落営農では集落内の住民は参加しているが、なかなか担い手の確保が難しい。 ・市として何か支援するような方策を考えているかどうかというところを確認したい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・それは農林水産分野のところで、農業の担い手をどうすればよいかということについて、委員の皆様から意見をいただきたいと思っていたとこ

委員	<p>ろ。数字で見ても農家は減っている。それをどうしていくかは本当に大きな課題で、一つは人に代わるものとして、機械化とかAIとかが解決策として期待はされているが、まだそこまではしていない。</p> <p>・今はとりあえずできるというレベルなので、新設備が整ってから本格的になってくると思うがまだ時間はかかると思う。</p>
事務局	<p>・当面は、地方創生とも関係してくると思うが、若者にできるだけ地域に残ってもらったり、域外から戻ってきてもらったりとか、そういうことを農業改革なども通じて、人手を維持していくというやり方を進めていくしかないと考えている。</p>
分科会副会長	<p>・環境分野のところで、政策を2つに分けている。1つ目は「自然とひとが調和した快適な空間の保全と創出」ということで、温度やCO2削減とか国や国際社会の大きな話があり、実際、市民・企業は具体的にどうということに取り組むかという、2つ目で、ごみの削減。海洋プラスチックの問題は1つ目になっていて無理矢理2つに分けているが1つでよいのではないか。具体的な施策になると、1と2は区別がつかないのではないか。1と2はどのように区別されているのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>・おっしゃるように両方に関係してくるものはあるが、これは市の組織や予算を考慮したときに、環境保全とごみ処理というのは分かれているので、今後実効性のある施策、事業を展開していくためには分野を分けておく方が、今後の事業展開をしやすいということ。</p>
分科会副会長	<p>・逆に部署が分かれているのなら部署を1つにしたら効率的なのではないか。</p> <p>・CO2を削減して、温度を下げてという話で、そこに地方自治体、地域の企業、住民がどのように協力していくかという話になるので、姫路市の部署、予算がどうのこうのというよりは、1つにする方がわかりやすい。これは見えていてわかりにくい。プラスチックは2の話かと思ったら1に出て</p>

	<p>くる。結局は分別してごみを捨てなければいけないという話になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温度を下げる、CO2を削減する、と言うが具体的にどうするのか。市も国に気を使いながらいろんな調整をされていると認識しているが、25%削減しなければならないとなれば、企業に25%削減しろということになり、市民は削減しようにもコントロールは効かない。そうすると全体として削減できるのかと言う話は、各自治体でうまいことやってという雰囲気、そうなることとできることと言えば、結局ごみの話になるのではないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ここは環境の保全という視点と、ごみの処理、資源の循環という2つの視点で整理していきたい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今の分け方は、私も進行していく上で1と2は重複した感じになるのでどう整理したらよいか悩んでいたが、そこは分けてこれからも進めていくことを前提とした方が良いか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。できれば分けて進めていきたい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・その場合、重複する話は両方に跨ぐというようにするのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・具体の施策、事業レベルでは跨らないようにしたいと考えている。現行の総合計画ではそういったものが、再掲という形で両方に出てきており、混乱する感があるので、今回は再掲をやめてどちらかの分野で納めるようにしたいと考えている。跨ってくるものもあると思うが、どちらかより重みのある方に納めようと考えている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は、いわゆる自然環境の話が1で、2はごみ問題やリサイクルという分け方だと理解していたが、委員のご意見、ご質問を聞くと、そこが混ざり気味な感じがするので、もう少しそこを最初の段階で切り分けたほうが良い。市民に伝える場合でも、もっと分りやすくした方が良いというのであれば無理矢理でも切り分けて進めて行かれた方が良い。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現状分析や社会潮流で、同じ言葉が出てくるような部分で余計に混乱して、おっしゃっているような意見が出てきていると思うので整理していきたい。社会潮流や現状分析のところは資料の参考2に示しているように、このまま載せるのではなく、この中での重要な要素を抜粋するので、そこで重複感がないように気を付けたい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今審議しているのが3ページの政策1だが、4ページの政策2「持続可能な循環型社会の形成」のところ、その目指す姿や、検討課題について重複するところもあるかもしれないが切り分けられているということを前提に修正点や内容の不足等あればご意見いただきたい。 ・今日はもう一つ農業のところも、この後しないといけないので時間配分の関係で、あと10分程度でご意見を出していただければと思う。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は、条例に基づいてということで、ご意見いただきたい事項に「市民、地域、企業・団体に期待すること」について、が挙がっているが、先ほど参考として説明していただいた観光と比べて、環境は低炭素化社会やまち美化で、市民、地域、企業等、それぞれの主体できることがかなり違う、出来ることに差があると思うが、その辺りはどうまとめるつもりか。そこも委員の皆さんに出していただくことになるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・もちろん取り組める程度も違ってくる。これは「期待すること」ということで、行政からの押し付けになってはいけないと考えている。あくまでできる範囲で、できることをしていただければということであるので、市民に過度なことを押し付けることを総合計画に書き込むつもりはない。 ・できれば、市民ではこんなことができるのではないかと、地域でこんなことができるのではないかとというところを皆さんからご意見いただきたい。事務局で考えている部分もあるが、我々が考えるとどうしても行政の押し付け的な考えになってしまうので、その辺を皆さんから意見をいただければありがたい、ということでこの二重枠の中に書かせていただいた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・4ページの囲みの中についてはコメントのしようがない。何かアイデア

事務局	<p>があれば、ということなのだろうが、あまり具体的なことを言ってもと思うし、一般的なことが一番難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 ページの「自然とひとが調和した快適な空間の保全と創出」については、里山の農業が崩壊すると、自然環境を崩壊したり、生物多様性のバランスが崩れたり、野生動物がたくさん出てくることになる。その辺は次の農業と関係することになる。 ・ 4 ページに書かれていることについては「市役所が考えたら？」という感じ。 ・ ごみ焼却施設の設置については反対があるのか。離れた場所であれば反対はないのではないのか。 <p>・ 周辺に持って行けば良いというものでもなく、慎重に考えないといけない。ごみ焼却施設の移転がうまくいかないのがこれまでの実情である。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼却施設については燃やした熱の利用で温水プールをつくることもある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姫路市の場合は「エコパークあぼし」がそうで、焼却施設だけをつくるのではなく、そのエネルギーを利用する、また環境にやさしい啓発の施設を作ったり、地域のコミュニティの活性化が図れたりするような機能も必要で、いろいろな要素が必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼却の後の、排気（排煙）については出ないようにしていると思うが、それでも反対が強いのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境基準で決められた以下のものを出すようにしている。 ・ 本市では、「エコパークあぼし」と「市川美化センター」という主に2つの施設がある。「市川美化センター」は延命化しているが、それも10年後くらいには終わるので、次の施設を検討するにあたってという前提があつての検討課題である。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今、姫路市が取り組んでいる具体的な例を挙げてもらおうとわかりやすい。 ・食品ロスの問題については、子ども食堂に商品として出荷できないような曲がった人参や大根を無償で提供させていただいている。そういうことも挙げていただいた方が皆さんのイメージがわくと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・普通の炉では処理できないごみがあると思う。我々漁業者は、ポリエチレンの網や、FRPの船など、ああいったものはこれまで個人で業者に引き取ってもらおうとかで、業者は中国に輸出していたと思うが、最近はそのが出来なくなったという話を聞いた。ああいったものはどこで処分されるのか。専用の焼却炉を作るにも莫大なお金がかかる。以前は個々に処分していたものがダメになっている。そういった特殊なごみは姫路市で対応できるのか。島でも引き取り手のないごみが溜まってきていて、処理費用が高くなると個人は出さなくなって、隠れたところで処理されてしまうのではないか。 ・エコパークなどの焼却炉で燃やすのは家庭のごみであり、特殊なごみはどのように処分するのか。早急に対処していただかないと沿岸海域のプレジャーボートなど莫大なものを最終的にどうするのかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・プレジャーボートのFRPをどう処理するのかということか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところはそれなりの金額を払って廃船しているが、規制がかかってどんどん処理費用が高くなると、みんな自分で処分するようになる。また、台風で水害とか起こると河川から海に冷蔵庫や車が流れてくる。漁業者がそれを持って帰って処分場に持って行くには手間とお金がかかる。
事務局（美化部長）	<ul style="list-style-type: none"> ・一般論で言うと、一般廃棄物は姫路市に処理責任があり、エコパークあぼしで処理できるもの以外は、それぞれこういった処分先で処理してください、ということをお願いしている。FRP船などの産業廃棄物系は排出者の責任になるため、保有している方が適正に処分しなければならないということになるが、今言われたようにルートがなかなかなくて、製品として

委員	<p>売れたものが、廃棄が大量に出る時になって処理が困るということが時代とともに起きてくる。今はPCBなどの処理については国である程度安価に処理できるルールができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、太陽光パネルが普及した影響で、太陽光パネルの廃棄についても、製造の段階で考えていなかったため国がガイドラインを作っている。個人や民間の自然な流れで廃棄処理できているときは良いが、そうでなく社会問題になったときは国がルールをつくるか、製造者責任に基づいてお金の負担を求めて、その財源を活用して処理のルールが決められるということになると思う。 ・海の底にあるごみの回収については国・県から補助をいただいて、漁業者はかなり環境を守っている方だと思う。これを個々にしろということになれば大変不満だと思う。 ・農業は違う。自分の土地、山がある。生い茂ってくれば自分の責任で伐採しなければいけない。それに困っている人がいる。海は自分の持ち物でなくみんなの海だからまだやりやすい。島も担い手がおらずどんどん木が茂って雑草がいっぱいである。誰が掃除しているかと言うと自治会で予算を組んで雑草の除去とかをやっている。行政に頼むのも限界があると思うので自治会が頑張らないといけない。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・まだご意見もあると思うが、時間の関係もある。主な検討課題についてご意見を聞きたいということだが、もう少し市が考えていることを挙げていただいた方が我々も意見をしやすいという話が出たので、具体的な取組をもう少し示してください。 ・続いて資料3について事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>[説明資料] 資料3 産業分野</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・5ページ右側に、産業分野の分野目標があり、今日ご意見をいただいて審議することになるが、この分野目標は農林水産業だけでなく、商工業も含まれている。商工業は次回出てくるということなので、分野目標に

	<p>については、文章表現や言葉遣いに関するご意見だけとさせていただいて、残りの時間は、6ページの目指す姿や方向性についての検討課題について審議したい。</p>
<p>参与</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分野目標は産業分野全体のもので、先ほども分野の枠にとられない形で新しい価値をとという話があったが、農林水産業と商工業は環境も課題も違う中で、文章を1つにする必要があるのか。次の「観光・スポーツ」分野では1, 2と分けて書かれている。農林水産業の課題と今後と言う形と商工業の今後を分けて考えないと、全体が産業分野としての目標ではあると思うがどうなのかと思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大括りすぎて全体のイメージが分かりにくい。
<p>分科会会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の中に、農林水産業と商工業を合体させるとどっちがどうかわかりにくいと私も思うところがある。この後内容の話や、次回、商工業の話も出てくるので、その中で皆さんのご関心のあるところを押さえて、ひとまとめにした方が意味すっきりするのではないか。 ・方向性を示すということで、今出されているものは、これで良いと思うが、最終的に出すのであればそこは分かるようにされた方が良いのではないか。次回検討する時間を持てるか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「観光・スポーツ」は明らかに、分野名に中点を入れているように、2つの分野があるので目標も2つに分けている。産業については農林水産業と商工業を含めて分野目標を書いているが、分けた方が議論しやすいというご意見であるので、次回までに検討させていただきたい。
<p>分科会会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間のこともあるので、6ページの「目指す姿」「方向性」「市民、地域、企業・団体に期待すること」の部分に関する意見を願います。
<p>分科会副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所で産業構造の分析をしているが、農業等、第一次産業の従事者が減ってきている。その中で兼業農家の比率が高い。兼業農家では自分

委員	<p>達が食べる分+αくらいしか作らない。しかも従事者が70歳代、80歳代に近づいてきている。この5年間の総合計画の中で何らかの策を打たない限り、後継者は出てこない。その時に先ほども話が出ていたことだが、事業を大型化して、専業、法人化も含めてするというのであれば、そこに対する支援をつけなければならないし、兼業農家を支援して自給率を保つという観点であればそういう対策をしなければならない。あるべき姿の話。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の担い手をどのようにするかというものがまずないと施策も打ちにくい。 ・昔「3ちゃん農業（じいちゃん、ばあちゃん、かあちゃん）」という言葉があったが、今では全部、お婆ちゃん、お爺ちゃんになっているので、そこまで全部担い手を探していくのか、それとも法人化して行って、機械をいれて、土地を大型化していくのか。政策はどうなっているのか。 ・農業について国の政策は、基本的には大規模化ということなのでそこに乗らざるを得ない。農振地域については「人・農地プラン」という国の支援があるがハードルが高い。姫路市内でも作成されているがもっと支援をお願いしたい。農振地域はその方向で行かざるを得ない。農業のスマート化も進めないといけない。 ・もう一つ、ここに全然出ていないが、先ほど兼業農家の話も出たが、姫路市には7千ちょっとあり、そのうち65%までが自給的農家である。販売農家は一部の兼業農家と専業でやられている方である。ここには農振地域のことしか書かれていないが、そういう農家を支援しないといけない。 ・農地には多面的機能もある。水害の時もダムの機能を果たすし、生物多様性の提供や、安心・安全な野菜の提供といった機能を果たしている。今はそういう農地に対する国の支援が全くない。そういったことも姫路市の中で少し考えていただければと思う。 ・農業者の新規参入が少ないのは、収入が天候などによって不安定であるから。国は年間5万人いると言っており、保障の制度などもあるが、なかなか若い人が参入しても、10年先まで続けられるかという、ほとんど10年もたない。5年間は国の補助金や助成金があるのでいけるが、その後、子どもを育てて大学まで出せるような所得を得られるという保証はない。
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>そこの根本を解決しないと難しいので検討していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たつの市などは、ヒガシマル醤油があるので、小麦や大豆については契約栽培ができる。地産地消で北海道の大豆や小麦を使わずに地元のものを使うということをしておられて、産地交付金をつけておられる。姫路市でも企業と連携して何かできないかと思う。これだけ市場が大きく、食品メーカーもたくさんあるので。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。先ほど環境のところでも話はあったが、改めてこちらでしていただいてもよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・農業は担い手不足という話が出ているが、外国人の方の力を借りる、という発想は姫路市にはあるか。
事務局（農林水産部長）	<ul style="list-style-type: none"> ・農業でも水産業でも、まだ数は少ないが既に力を借りている。特に農家の方が課題とされているのが人手不足。日本人ではなかなか応募がないところもあり、外国人の方に是非来ていただきたいと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業では、5年前からインドネシアの方に来てもらっている。若いし優秀である。うちの島に30人はいると思う。それで3年したら帰る。一番の条件は国に帰って同じこと仕事ができること。巻き網、底引き漁業は同じようにできる。 ・ノリ養殖についても来てもらいたいが、インドネシア、ベトナムにはノリ養殖という職がない。そこを曲げて1年、正確には半年だが来てもらって研修している。研修生であるので、日本で勉強した結果を自国へ帰って同じことを役立てるのが条件であり、向こうにない職ではダメということになっている。そこを期間や職種をもっと広げていただけると助かる。これは国の方針なので、代議士の方をお願いするほかないがなかなか難しい。 ・同じ働きなら日本人と同じ賃金を支払うのが当然だが、そうになると採算性の問題が出てくる。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・農業は季節性があるので、仕事の需要がコンスタントにあるかという問題と、中間業者の搾取がひどい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の労働者の受け入れもうまくできないかという話かと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人と同じ労働条件で、家も用意しなければいけない、食糧はどうするとか、そういったことも条件に入れるとなかなか難しい。収入が多くなればそれだけ助かるが、なかなか1事業者で2人の研修生を雇うのは大変である。最終的には来ていただいても日本人と同じ支出になっている。それでも日本人はいないので外国人に頼らざるを得ない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄工産業も同じ。地元からの採用はなかなか厳しく、中小になればなるほど人がいないのは同じ。こちらでも海外の研修生が増えてきているが、住むところが中小が一番困っている。企業がどこか借りないといけない。姫路市と企業がタイアップ、協賛して中小向けに貸し出す寮みたいなものができるか。市営住宅に空きがあるならその辺を調整するとか。 ・大手は自分のところで寮を持っていて、社宅もありそういったところへは県外からいくらでも入ってくる。まずそういった施設を借りるのであれば姫路よりも大阪や神戸にいけば就職するところがある。姫路でそういう場所があるのなら姫路で仕事をしようかとなるようなものを作っていただけないかなと思う。 ・経営者自体が、次の繋がりがなくなって廃業するというのもどんどん出てきている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足、後継者不足は農林水産業だけでなく商工業も同じ課題がある。これからどんどん生産年齢人口が減ってくる中で、日本人の労働力は期待できないので、外国人の労働力をいかに取り入れるかということで、おっしやっていることと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうところに食品の問題もあるので、コンビニとかでも、企業が買い取って、先ほど言われたように子ども食堂の部分でそういったところが

	<p>運営できないかなど、広く市民全部が助け合っていないといけないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題でもそう。取組としてイオンさんが全部をソーラーパネルに変えた。関西電力と一緒にそういうものを作ったというのは新聞にもあった。そういった形で、企業も行政も市民も何か動いていかなければいけない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの話に戻るが、姫路市の海外の姉妹都市との交流の中で、今の担い手不足の解決などの取組はされているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・海外姉妹都市ではない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・何か力を貸していただけるような取組もないか。姉妹都市的な発想ではどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今は、語学留学的な教育分野や、スポーツ、文化の交流はある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足の解決の糸口みたいなものは。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人材に労働力の補完で入っていただくというのは重要だと思うが、それだけでなく、高度な外国人材を育てるという意識。単純な労働だけでなく、企業の指導的なことができるようになる人材を日本で育てる。そういった人が海外からくる自分の国の新しく来た人を、まとめるという仕組みを作っていないと、いつまでも労働力で来ていただくのには限界がある。 ・日本の評判を落とすようなこともある。トータルでやることが重要ではないか。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・商工業では、ベトナムなどで大学を卒業した人達をヘッドハンティングしたりしているが、外国人は元々高度人材しか採用できなかった。それと先ほど出た外国人実習生で、現場に近いところの労働力の代わりをやって

	<p>きた。特定技能というのができて30何万人という動きもあるので、これだけ人口減少だから人手を海外から引っばってこななければいけないという流れはあるのですが、姫路はメーカーを中心に結構外国人労働者は多い方ではないか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料参考の現状分析（P7）によると農学部を作るかのような項目があるが、そういったところに海外からの留学生を入れるべき。道は遠いが、そういった高度な農業人材、工業人材を育成していくのが大事。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに農業学部はない。県立大学とかで工業の大学的なものは高校も含めて多い。農水産はなかなかない。水産の方では廃校になった山の中の学校を活かすみたいな話がテレビに出たりするが、大学の研究室にそういった場所を貸して呼んでくる話があってもよいかもしれない。 ・それこそそういった担い手は海外留学生にはプラスになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人労働者の話が出たが、私は逆にもう少しロボットやIT化の推進が重要であると思う。 ・もう一つ、今いる日本人の活用が大事だと思う。商業の話だが、観光で訪れて気に入った場所で、都会でビジネスをしていてリタイヤした人たちがこれまでのスキルを活かしてゆっくり生活するという話も出ている。 ・若い人が都会で就職するのは仕事があるから行かざるを得ない場合もあり、本当は地元で暮らしていきたいという若い人もいる。一旦就職はしたけれどもその職業が合わない人もいて、それで職業をチェンジして、農業というのもあると思う。 ・最近では地場産業の活性化で若い人が活躍しているシーンをよく見る。それは実はほんの一部なのかもしれないがそういったものがもっと活性化してほしい。その時に、若い人が何かやろうとするときに今までのやり方に反対されてできないということもある。 ・職業をチェンジしようとしている人を受け入れて育てられるようなシステムを作れないのかと思う。新しいやり方を受け入れていってもらえるシステムがあればと感じている。

<p>分科会会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業に関しては、主な検討課題の「イ 農林漁業者の担い手不足と高齢化が進行する中で、多様な担い手を確保するためには？」に関するところで、かなり意見が出た。他にも課題はあるがその関心が強いということであるので、そこを膨らました形で方向性を検討していただきたい。 ・それではまだご意見もあると思うが、時間になったのでこれで第2分科会の第2回会議を終了する。事務局からの連絡をお願いします。
<p>事務局</p>	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は、11月8日（金）午前10時から、場所は市役所本庁舎10階第2会議室。詳しくは後日連絡する。次回は、本日の残りの商工業と観光・スポーツ分野、時間が余れば本日の農林水産業についても議論いただいてもよい。 ・「#自称姫路市長」の取組について、委員に協力依頼。 ・以上をもって閉会とする。 <p>5 閉会（16:10）</p>